

事業系PETボトル

国内循環利用を検証

小売店と連携 店頭回収し再資源化

市町村ルートに加え事業系ルートでもリサイクルを推進する必要がある。ただ、容リ法ではなく廃棄物処理法などに基づき運用されるためインフラ整備が遅れており、国内でリサイクルされずに海外に輸出されることが多い。小売店での店頭回収およびリサイクルは、こうしたPETボトルを国内で有効活用する方策を模索するもの。

協栄産業は、新たなリサイクル網を検証する。スーパーなど小売店で回収される事業系PETボトルを高品質PET樹脂に再生する。セブン&アイ・ホールディングスとトムラ・ジャパンと連携し、今月からセブン&アイ傘下のスーパーで分別収集を開始し

協栄産業

た。半年程度をかけて再生PET樹脂の品質などを確認し、各種の再生用途に展開していく予定。PETボトルの国内循環利用を促す仕組みとして、他の小売りチェーンとも連携したい考え。リサイクル拡大の可能性を探っていく。

回収されたPETボトルを選別・破砕・洗浄した後、協栄産業のメカニカルリサイクル設備で石油由来のPET樹脂と同等の品質・物性を持つ再生PET樹脂「MRPET」を製造する。回収PETボトルの効率的な輸送方法などとともに、再生PET樹脂の品質を3カ月から半年をかけて評価する。品質が確認された用途から順次、再商品化にトに乗せる。

MRPETは再利用が難しかったボトル容器やフィルム・ラベル、機能性繊維などにも使える。PETボトルの国内循環を促進するため再生用途の開発を進めており、サントリー食品インターナショナルとは市町村ルートで回収されたPETボトルをPETボトルに再循環させる「BtoB」リサイクルを実現している。昨年度からは環境省の委託を受け、リサイクル網の拡充と高付加価値な再生用途創出の検証を行った。

使用済みPETボトルは、主に容器包装リサイクル法（容リ法）に基づき、市町村ルートと事業者自らの責任でリサイクルする事業系ルートの2つ

トムラと共同で、店頭回収・リサイクルシステムを構築する。イトーヨーカドーとヨークマートの店頭にトムラが自動回収機を設置。

国内循環を促すには、

普及へ評価

低炭素建